うちなー

発行　浄土真宗本願寺派
本願寺沖縄別院
（浦添本願寺）

発行人　佐々木　龍三

〒901-2132
沖縄県浦添市伊祖5-10-1
電　話（098）877-3276
ファックス（098）877-4242
mail ameku2182@yahoo.co.jp

2020（令和2）年 新年のご挨拶

本願寺沖縄別院輪番　**佐々木龍三**

謹んで新年のご挨拶を申しあげます。皆さまには、いつもご協力をいただき有難うございます。

昨年、沖縄では首里城が焼失する悲しい出来事がありました。多くの方が心を痛められたことでしょう。

仏教には、諸行無常という教えがあります。あらゆるものは常に変化して、とどまることがないという教えです。例えば、どのような建物であっても、何百年、何千年と経るうちに災害にあったり老朽化するなど、同じ姿をずっととどめておくことは困難でしょう。人間もそうです。今は元気であっても、病気になること、老いること、死ぬことから避けることはできません。このように、諸行無常は真理ですが、実際に大切なものを失うと、悲しみが大きくなかなか現実を受け止めることができません。

そのようなことを考えるとき、東日本大震災で被災された方のお話が思い出されました。「無常というのは、形あるものがなくなっていくことばかりではありません。移り変わりの中でご縁により、新しいものが生まれていくこともまた無常です。この無常の教えが希望に聞こえました」というお話でした。悲しい状況がずっと続くのではなく、その状況が変わっていくことも諸行無常だということです。

首里城については、沖縄県内外で、すでに再建に向けて活動する人たちがおられます。悲しみはなくなりませんが、希望が生まれています。このように支え合う心が希望に繋がっていくのでしょう。私たちもこの希望に向けて協力していきたいと思います。

人生においても、どうしようもない現実に直面したとき、自分だけをたよりとするのは困難で、支えてくれるものが必要になります。支えてくれるのは、人間だけではありません。浄土真宗のみ教えでは、阿弥陀さまが、悲しいときも、苦しいときもいつも私に寄り添ってくださっていて、また、阿弥陀さまのお浄土に生まれて仏となられた大切な方々が、縁ある方々を真実に導いてくださっていると説かれています。

阿弥陀さまをはじめ、私を支えてくださっているあらゆるものに感謝しつつ、精一杯過ごさせていただけたらと思います。

本年もよろしくお願いいたします。

ほとけさまのおはなし

もったいない！

先日、あるご家庭でご法事を終え、お斎をいただきながらの話です。「日本の食品ロスは年間600万トン以上、廃棄コストは2兆円だそうですよ」「食べ物が満足に食べられない国がたくさんあるのに、もったいないことですね」。

「もったいない」という言葉が出ましたが、この語源をご存知ですか？

「もったいない」は仏教用語で、物体（ぶったいのことですが「もったい」と読みます）の否定形ですから、物の本来あるべき姿がなくなるのを惜しみ、嘆く気持ちを表します。また、勿体の字には重々しさ・威厳の意味があり、「もったいない」は妥当でない・不届きといった意味、などでも用いられていたようです。

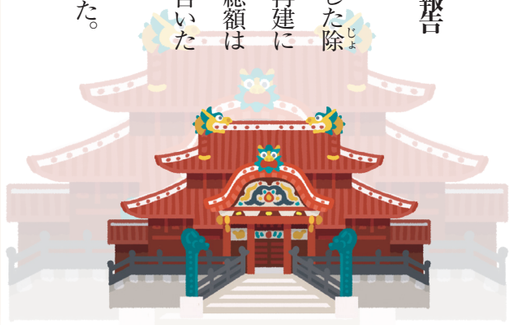
現代では、お寺の法座などで参拝の方々から「もったいない」という声がよく聞こえてきます。「私にはもったいない、ありがたい」という感謝の気持ちが伝わってきます。み教えを聞き、我が身を知らされ、我が身の罪に気付き、み仏さまの大きな慈悲に目覚めさせられたとき、思わずこぼれ出てくる言葉のようです。私の拠り所はここだったと気付かせてもらえた深い喜びの言葉です。

み仏さまに照らされ、生かされているこの私のいのち。「もったいない」という感謝の心をいただきながら、一日一日を過ごしてまいりたいものです。

「首里城再建寄付金」募金のお礼とご報告

昨年12月31日（火）に沖縄別院で修行した除夜会において参加者の皆さまに、首里城再建についての寄付金を募りました。寄付金の総額は17，541円となりましたこと、ご報告いたします。

あたたかいご協力、ありがとうございました。



行事案内

2月後半の行事

日曜学校【久米島布教所】
2月16日（日）午前10時～

法話会【久米島布教所】
2月16日（日）午後7時～

天久常例布教【天久礼拝所】
2月23日（日）午前10時～
講師：湯次行範 師（別院職員）

勤式練習会【沖縄別院】
2月25日（火）午後7時～
講師：伊波敬人 師（浄願寺衆徒）

3月の行事

僧侶研修会【沖縄別院】
3月7日（土）午後7時～
講師：葦原理江 師（熊本教区葦北組覺應寺衆徒）

常例法座【沖縄別院】
3月8日（日）午前10時～
講師：葦原理江 師（熊本教区葦北組覺應寺衆徒）

日曜学校【久米島布教所】
3月15日（日）午前10時～

久米島報恩講法要【久米島布教所】
3月15日（日）午後7時～
法話：佐々木龍三 師（別院輪番）

春季彼岸会【沖縄別院】
3月20日（金）午前10時～
法話：佐々木龍三 師（別院輪番）

沖縄特区全戦没者追悼法要
3月29日（日）午後5時40分～

報恩講法要

上）法要の様子
中右）列衆の永井さん（右）、竹永さん（左）
中左）ご法話をされる齊藤師
下）挨拶をする佐々木輪番

1月26日（日）午前10時より沖縄別院本堂にて、宗祖親鸞聖人報恩講法要を佐々木龍三輪番の導師により修行しました。報恩講法要とは、親鸞聖人のご命日をご縁に、阿弥陀さまの救いを味わわせていただく、一年で最も大切な法要で、たくさんのお参りがありました。列衆には昨年同様、大阪教区から永井慶子さん、竹永廣子さんに出勤いただきました。また内陣には、ご門徒の大丸克子さんが仏華を美しく生けられました。

法要では「広文類作法」をお勤めし、本願寺第3代宗主の覚如上人による『御伝鈔』（親鸞聖人のご生涯をつづった文）が拝読されました。続いて輪番より「親鸞聖人のご苦労を偲びつつ、生涯を通して浄土真宗のみ教えを伝えてくださったご恩に感謝し、共々にお念仏を喜ばせていただきましょう」と挨拶がありました。

ご法話には、熊本教区合志組光尊寺住職の齊藤真師を講師にお招きしました。齊藤師は、「阿弥陀さまはいつでもどこでもどんな時でも、この私に寄り添ってくださっています。仏さまのお心を暮らしの中に味わわせていただき、ご縁をいただきながらの日暮らしを大事にしたいものです」とお話しされました。

お昼には、ご講師、出勤・ご参拝の皆さんと一緒にお斎をいただきました。今年も多くのご参拝をいただき、大変ありがたいご縁となりました。沖縄別院では皆さまのご参拝を心よりお待ちしております。

皆で「お斎」をいただく

お斎では、沖縄別院責任役員の大城貴代子さんが、お手製のぜんざいを振る舞ってくださった

もちつき大会

12月29日（日）、沖縄別院、久米島布教所でもちつき大会を開催しました。門信徒や関係者などたくさんの方が参加され、仏さまにお供えするおもちを作りました。残りのおもちは、参加の皆さんとおいしくいただきました。

除夜会 除夜の鐘

12月31日（火）、沖縄別院、久米島布教所で除夜会が修行されました。それぞれ600名、200名もの参拝者があり、参拝を終えた方は順に除夜の鐘を撞きます。境内にはお念仏と笑顔があふれていました。